

## 金融機関の競争が新規参入企業の廃業率に与える影響に関する研究

名古屋大学大学院

大鐘雄太

有利な投資機会に恵まれた資金不足主体への資金循環を円滑化し、効率的な経済活動を実現するのは、金融機関の重要な役割の一つである。しかし、現実の世界では、金融部門においても様々な非効率が発生している。その代表例として挙げられるのが、中小企業の資金調達に伴う非効率性である。一般的に、中小企業は資金調達に際して、外部資金のニーズが高い傾向がある。しかし、その一方で、中小企業は金融機関との間に存在する情報の非対称性が大きいいため、外部からの資金調達が困難になっている。とりわけ、企業年齢の低い新規参入企業にとっては、外部からの資金調達が極めて困難である。

以上のような、企業と金融機関との間に存在する情報の非対称性を緩和する手段として近年注目されているのが、リレーションシップバンキングである。リレーションシップバンキングに関する研究は、世界中で進められており、これまでの研究によって、そのメリットとコストが次第に明らかになってきた。しかし、リレーションシップバンキングには、メリットになるかコストになるかの評価について、意見が分かれているトピックも存在する。その代表例が、金融機関の競争である。

金融機関の競争がリレーションシップバンキングを促進すると主張する研究は、金融機関の競争が激しくなると、各金融機関は他の金融機関との差別化の手段として、企業とのリレーションシップを強めるという考えに基づいている。一方、金融機関の競争はリレーションシップを阻害すると結論づけている研究は、金融機関の競争が激しくなると、取引企業を長期にわたって囲い込むことが難しくなるため、企業とのリレーションシップの構築に消極的になるという理論に立脚している。

以上の結果を受けて、本研究では、企業と金融機関のリレーションシップの重要性を示すための指標として、廃業率を採用し、金融機関の競争が新規参入企業の廃業率に与える影響について実証的に分析する。この分析の目的は、次の2点である。第1に、金融機関の競争が新規参入企業の廃業の回避にどのような影響を与えるかについて明らかにすることである。第2に、新規参入を含めたすべての中小企業を対象にした場合、金融機関の競争が企業の救済確率に与える影響は、新規参入企業のみを対象にした上記のケースと比べて、どのような違いが現れるのかについて明らかにすることである。

分析の結果、金融機関の競争は、新規参入企業の廃業率を高めるが、その傾向は企業年齢の上昇とともに逆転し、成熟企業にとっては金融競争地域に属する方が、金融機関に救済される確率が高くなることが明らかとなった。